

平成23年5月27日

各位

会社名 株式会社 アサカ 理研
 代表者名 代表取締役社長 山田 慶太
 (コード番号:5724)
 問合せ先 取締役管理本部長 鈴木 忍
 TEL. 024-944-4744(代)

平成23年9月期第2四半期累計業績予想と実績との差異、通期業績予想の修正、
 災害による特別損失の計上及び配当予想の修正についてのお知らせ

平成22年11月12日に公表した平成23年9月期第2四半期連結累計期間(平成22年10月1日～平成23年3月31日)の業績予想と実績との差異、最近の業績の動向等を踏まえた、通期(平成22年10月1日～平成23年9月30日)の連結業績予想の修正、東日本大震災に関連する特別損失の計上と、これらを踏まえた配当予想の修正について、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 平成23年9月期第2四半期累計業績予想と実績との差異について

(1)第2四半期累計期間 連結業績(平成22年10月1日～平成23年3月31日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	5,905	197	182	88	35円57銭
実績(B)	6,052	257	243	20	8円43銭
増減額(B-A)	146	59	61	△67	—
増減率	2.5%	30.1%	33.5%	△76.3%	—
(ご参考)前期実績 (平成22年9月期第2四半期)	5,500	140	116	59	23円43銭

(2)差異が生じた理由

当社グループの主要な取引先が属する電子部品・デバイス工業分野において、高機能携帯情報端末の需要増加などを背景に、生産が堅調に推移しておりました。しかし、東日本大震災により、当社および取引先の生産が減少したことにより、主力の貴金属事業、環境事業ともに、当期間における主要製品の取扱い数量は、当初計画を下回りました。

一方、主力製品である貴金属及び銅の価格は、為替が円高で推移する中でも、比較的高い水準で推移しました。当期間においては、金の価格を3,200円/g、銅の価格を680千円/tと想定しておりましたが、いずれも想定を上回る水準で推移しました。

以上により、貴金属事業の売上高は、貴金属価格の上昇が取扱い数量の減少分を補い、165百

万円増加しました。しかし、環境事業においては、銅価格の上昇が数量の減少を補いきれず、売上高は、20百万円減少しました。

その結果、連結売上高は、6,052百万円、連結営業利益は、257百万円、連結経常利益は243百万円となり、前回予想を上回りました。連結四半期純利益は、「3. 災害による特別損失の計上について」に記載のとおり、東日本大震災に関連した特別損失を計上すること等から、前回予想を下回り、20百万円となりました。

2. 平成23年9月期 通期業績予想の修正について

(1)通期 連結業績(平成22年10月1日～平成23年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	12,131	437	411	214	86円08銭
今回発表予想(B)	12,254	369	329	67	27円29銭
増減額(B-A)	122	△68	△81	△146	—
増減率	1.0%	△15.7%	△19.9%	△68.3%	—
(ご参考)前期実績 (平成22年9月期)	11,778	415	386	181	72円19銭

(2)修正の理由

東日本大震災の発生により、景気の先行きは不透明感を増しており、サプライチェーンの混乱の長期化等により、景気が下振れするリスクが存在しております。

今後、当社グループの経営成績に影響を及ぼす電子部品・デバイス工業分野の生産は、徐々に回復していくものと予想しておりますが、震災前の水準に戻るには時間を要すると考えられるため、主要製品の取り扱い数量は、当初計画を下回る見込みです。

一方、貴金属及び銅の価格は、当初計画の想定を上回って推移しており、今後の金価格は、3,700円/g、銅価格は、700千円/tと想定しております。

以上により、貴金属事業の売上高は、貴金属価格の上昇が取り扱い数量の減少分を補い、当初計画と比較して、200百万円増加し、環境事業の売上高は、銅価格の上昇が数量の減少を補いきれず、65百万円減少する見込みです。その結果、連結売上高は、前回予想を上回る12,254百万円となる見込みです。

利益面では、貴金属及び銅の価格上昇によるプラスの影響があるものの、取り扱い数量減少の影響をより大きく受け、連結営業利益は、369百万円、連結経常利益は、329百万円、連結当期純利益は、67百万円となり、いずれも前回予想を下回る見込みです。

3. 災害による特別損失の計上について

平成23年3月11日の東日本大震災の発生により、当社では、本社及び工場の建屋や一部の設備に損傷を受けるとともに、棚卸資産の一部が滅失しました。これら災害による損害額65百万円を、平成23年9月期第2四半期において、特別損失として計上いたします。損害額の内訳は以下の通りです。

(単位:百万円)

内容	金額
災害による稼働休止期間中の固定費	21
災害資産の原状回復費用	36
災害による棚卸資産の滅失等	4
その他	3
合計	65

4. 配当予想の修正について

当社は、株主への利益還元については、重要な政策であると認識しており、また同時に今後の事業展開に備えるための内部留保を充実させることも必要であり、業績に裏づけされた成果の配分を行なっていく方針としております。

今回の東日本大震災の発生と、それに伴う経営環境の変化によって、当期の業績は当初計画を大幅に下回る見込みであることから、当期の1株当たり配当予想を、前期実績と同額の15円に修正いたします。

(単位:円)

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
前回発表予想 (平成22年11月12日発表)	—	0.00	—	18.00	18.00
今回発表予想	—	0.00	—	15.00	15.00
当期実績	—	—	—		
前期(平成22年9月期)実績	—	0.00	—	15.00	15.00

(注) 上記の業績予想は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上